



10/24(木) 14時/八代市
E様

朝、Aさん(農業法人 A様) 合流し、一緒に八代まで移動しました。

道中、いろいろな事、教えていただきました。「農家みんな恐ろしくて、肥料を変えきれない。何をしてほしいのか、農家の気持ちが分かる。」

到着後、ハウス内にて...

今、ハウス、1町8反や、てます。トマトの価格が暴落して、しもうて、去年は、大変や、た。

ハウス内のトマトの、背丈、四角四面が全部、一緒、枯れるのが、1本もない、スゴイ。

連作連作。みんな温風消毒とかしてる。そんなもん、いらん。

このハウスのとなり、青枯れして、全滅。更地になってます。

品種が違って、同じようなトマトが出来ないように、なりました。

根と茎が、たくましいので、立派な作物が出来る。玉がデカイでしょ。最終的にトマト18段いく。普通12,3段で終わってしまう。

(よそのは、反に苗2,000本) うちの、反1,000本。そして、量は、よその倍とる! 無駄な経費は、使わないんです。⇒(苗は、半分!)

トマト、3週間くらい、ほっといても、ビクともしない。長持ちする。

てんてんの菌の持続力は、3~4ヶ月。バクテリアがCO2を出す。と、いうことが、植物に良い。

だから、土壌がフワツとする。

最低30%の畑が、全部、良く作物が出来ないと、ダメ。



グツグツと、本格的なサイズになってます。色は、すぐに、つくけんネ、何も心配してません。



来年4月 大型クルーズ船の受け入れ施設である「くまモンポート八代」がOPENします。そこで地元八代の食材を提供します。関心も高まり、取引量は、伸びるはず。と期待しております。

窒素・リン酸・カリは、ただのエサ。その前に、土壌を作らないかん。待ってもらえない。入れて、すぐ出来なきゃ意味がない。作らないと、分かん。食べてからじゃないと、分かん。

てんてん いれた時が小さい場合、根の方が、発育が早い。途中から、いきに行く。後半が強い特長。



奥まで100m以上、ピシヤリです。笛、鳴らさんと聞こえんばい。



さんから、ミニとし 持て帰て! と、いただきま〜す♡



■ガソリン販売 厳格化 2
 ■八代 クルーズ拠点に 6
 ■韓国 高校で反日強要 8
 ■ラグビーきょう準決勝 26

地域創造

* 八代市

国が国際クルーズ拠点に指定している熊本県八代市の八代港で、米大手船会社と国、県が官民連携で整備する大型クルーズ船の受け入れ施設「くまモンポート」八代一が来年4月、オープンする。九州の中央に位置する八代港は各地への交通の利便性が高く、県と市は全国有数の寄港地として成長させたい考えだ。リビーターを増やせるかどうかや、地元への経済波及効果を拡大していけるかが焦点となる。(中西 瑛)

■「まるで街が移動」

今月19日、ビルのような大型クルーズ船がゆつくりと近づき、八代港の岸壁に着岸した。米大手船会社「ロイヤル・カリビアン・クルーズ」が運航する16万トンのクルーズ船「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」(定員約4200人)で、乗客の大半が中国人だ。近くでは、くまモンポート八代の整備が進む。一つ一つの街が移動していくようなもの。今後、さらに大きな経済効果を生み出したい。クルーズ船誘致を先導してきた八代商工会

国際クルーズ 玄関口に

拠点指定 受け入れ施設整備

議所の松本商工会頭は強調する。

同港に寄港したクルーズ船は2008年に4隻だったが、15年は12隻、17年は66隻、18年は30隻だった。船から見える天草の島々の景観や、九州自動車道の八代インターチェンジ(八代)が近く、県内の阿蘇や熊本城(熊本市)、八代市といった観光地に行きやすいことなどが強みになっている。

■22万ト級も可能に

さらに追い風となるのは、国土交通省が17年に、八代港を国際クルーズ拠点に指定したことだ。この制度は同年の港法改正で導入された。国交省は「最大の特徴は外国の船会社に、クルーズ専用受け入れ施設の整備の一部などを担ってもらい、官民が連携して事業を進められることだ」と

する。

八代港では国交省が新たな岸壁を整備する一方、岸壁の優先利用を40年間、ロイヤル社に認める。その代わり、同社がCIG(税関・出入国管理・検疫)施設や免税店を備えた旅客ターミナルと、広場を整備する。広場では、アジアで人気の高い県のPRキャラクター「くまモン」を前面に出す。全長600メートルの巨大くま



整備が進むくまモンポート八代の旅客ターミナル。阿蘇や周辺の広場。奥の岸壁には、ロイヤル社の大型クルーズ船が停泊していた。(左)熊本県八代市、(右)西原隆雄

国際クルーズ拠点に指定された八代港

くまモンパークには合陽隊の旗が、(左)は完成イメージ図、(右)熊本県報

クルーズ観光の現状や見通しなどについて、ロイヤル社日本総代理店「ミキ・ツーリスト」(東京)の百武達也・クルーズカンパニー長に聞いた。

◇

中国発着のクルーズ船はこれまで、中国の旅行会社が丸ごとチャーターすることが主流で、船会社と連携して供給数を増やした。しかし、競争が激化し、客室の販売単価の低下につながった。そこで、現在はロイヤル



「くまモン」前も 寄港数の増加も

社などが適正価格で販売する方針を掲げ、結果的に日本への寄港数が減っている。ただ、クルーズ観光の見通しは明るく、今後も各社の最新鋭の主力船が中国に投入される計画だ。九州は立地的に上海や香港からのツアーを組みやすく、寄港地にとっても大きな好機となるだろう。八代港は他港にならぬように、くまモンという特色を生かして、今まで以上に船を呼び込める可能性がある。(談)

ンや、約30体のくまモンによる合唱隊などを設置した「くまモンパーク」(仮称)のほか、日本庭園、フードコートなどを設ける。総事業費はロイヤル社が拠出する約30億円を含め、計約185億円。

今回の整備で世界最大の22万ト級のクルーズ船(定員約4000人)の寄港が可能になる。すでにロイヤル社に地産の食材を提供している南社「KMI」(八代市)の宮崎浩一社長は、「ロイヤル社への関心が高まっている」と期待する。

競争激化も予想される。佐世保港は、世界最大手のカーニバル社がターミナルを整備する計画で、7日には地鎮祭が行われた。ただ、18年以降、外国のクルーズ船の寄港数は減少傾向にある。国交省によるクルーズ船の国内での入港数は、17年が2013回と最高だったが、18年は1913回と5%減少。19年も苦戦が続く。

さらに、地元では「クル

「くまモン」前も 寄港数の増加も

「くまモン」前も 寄港数の増加も

■競争激化も

国際クルーズ拠点は全国で9か所あり、九州・山口は八代港、佐世保港(長崎県)、鹿児島港(鹿児島市)、下関港(山口県)の計4か所。横浜港(横浜市)や、清水港(静岡市)のほか、沖縄県でも宮古島の平良港

城下町から工業都市に

八代城の城下町として栄えた八代市は、球磨川の水資源を背景に、古くから養蚕に使われるイ草や米などの一大生産地だった。明治期以降、太平洋セメントや日本製紙(いずれも現企業名)などが進出するなど、熊本県南最大の工業都市となった。現在は韓国・釜山との国際コンテナ定期航路もある。2005年には近隣6市町村による合併が行われ、現在の市域となった。人口は約12.7万人(9月末現在)で、県内では熊本市に次ぐ2番目だが、中心市街地は人口減少などで疲弊しており、再生が課題となっている。